

# 競 技 注 意 事 項

道国体選手選考会釧路大会

## 1. 競技規則について

本大会は2017年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施する。

## 2. 練習場及び練習について

(1)練習は、下記のように本競技場を使用してよい。

**8月11日** 9時00分～17時00分

トラック 1～2レーン：中長距離

3～6レーン：短距離

7レーン：女子100mH、バックストレート400mH

8レーン：男子110mH、バックストレート400mH

フィールド

走幅跳：スタンド側Bピット

三段跳：スタンド側Aピット 踏切板から砂場までの距離10m

走高跳：第3、4コーナー付近

棒高跳：バックストレート側ピット

・跳躍の練習時間は10：00～17：00とするが、棒高跳は16：00までとする。

砲丸投：（サブ競技場）9：00～17：00

円盤投：（本競技場）10：30～12：00、13：30～15：00、16：00～17：00

ハマー投：（サブ競技場）9：00～17：00

やり投：（本競技場）9：00～10：30、12：00～13：30、15：00～16：00

**8月12日** 7時00分～8時00分（本競技場はやり投のみ。他の投てき練習はサブ競技場で行う。）

**8月13日** 7時00分～8時30分（本競技場は円盤投のみ。他の投てき練習はサブ競技場で行う。）

(2)投てきの練習は事故防止上、監督・顧問・コーチが必ず立ち会いのもとで練習すること。

## 3. 競技者の招集について

(1)招集所は正面出入口付近に設ける。

(2)各種目の

招集開始時刻・完了時刻は、すべてその競技基準とし、下記の要領で行う。

技開始時刻を

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	25分前	15分前
フィールド競技	40分前	30分前
棒 高 跳	70分前	60分前

※棒高跳は1時間前現地点

呼

(3)競技者は、競技招集所付近に掲示した出場競技者一覧表に競技者又は代理人が○で囲むこと。

(4)競技者は、招集完了時刻までに集合し、ナンバーカードの確認を受け、競技者係の誘導により競技場に入ること。

(5)棒高跳に出場する競技者は、競技開始時刻1時間前までに現地に集合のうえ、点呼を受け準備を行うこと。

(6)他の種目に出場しているなどの特別の事情がある場合に限り、代理人による点呼を認める。この場合必ず競技者係主任に申し出ること。

(7)招集場所での不在や招集時刻に遅れた競技者は、当該種目を棄権したものとして処理する。

(8)当該競技を棄権する場合は、必ず棄権届を競技者係に提出すること。(招集開始時刻前までに提出すること)

#### 4. ナンバーカードについて

(1)全ての競技者はユニホームの胸、背に主催者が交付したものを使用し、確実に付けること。跳躍競技に出場する競技者は、胸又は背のどちらかに付けるだけで良い。

(2)トラック競技出場者は、写真判定用の腰ナンバーカード(点呼の際、競技者係より配布)を右腰やや後方に付けること。フィニッシュ後に自分で外し、係の者に返却すること。3000m以上は、黄色のレーンナンバーカードを使用する。

#### 5. レーン順、競技順について

(1)トラック競技予選レーン順、フィールド競技試技順はプログラム記載の順による。

(2)準決勝、決勝の組み合わせ及びレーン順は番組編成係で抽選をし、その結果を招集所に提示する。

(3)短距離競走のフィニッシュ後は、競技者の安全のため自分に割り当てられたレーン(曲走路)に沿って走り終えること。

(4)準決勝以降のトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は番組編成で公平に抽選し決定する。トラック競技において、プラス進出者を決める場合、同タイム者についてレーンに余裕がない場合は写真判定を拡大し、細部(電気時計1/1000)まで読み取り着差を判定する。判定が不可能の場合は本人または代理人によって抽選をし、次ラウンドの進出者を決める。

#### 6. 競技について

(1)不正スタートをした競技者は1回で失格とする。

(2)スタート時の不適切行為は注意が与えられる。

(3)長距離競走において1レースの競技者が多数の場合は、グループスタートで行う。

(4)トラックレースの予選において、棄権者により出場者が8名以内の場合は、予選をおこなわず決勝の時間に行う。

(6)少年共通男子5000mWと成年女子5000mWは、競技運営上の理由から男女同時スタートとする。

(7)少年共通男子5000m、少年B3000mは決勝タイムレースで実施する。組み分けは申告された記録により、上位と下位に分ける。

(8)助力については、競技場内では禁止とするが、コーチングエリアやスタンドからの助言については競技運営や他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認める。また、コーチングエリアにおいて、映像機器を競技者に見せることができるが、競技者に渡したり、競技者が操作したりしてはいけない。

ミュージックプレーヤー・携帯電話・スマートホン等の電子通信機器を競技場内に持ち込むことはできない。

#### 7. 競技規程および方法について

2017年度日本陸上競技連盟競技規則によるものの他は、次の通りとする。

(1)少年共通男子110mHのハードルの高さは0.991m、ハードル間の距離は9.14mとする。

(2)少年B女子100mHのハードルの高さは0.762m、ハードル間の距離は8.5mとする。

(3)少年B男子砲丸投の砲丸の重さは、5.00kgとする。

(4)少年B女子砲丸投の砲丸の重さは、4.00kgとする。

(5)走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	区分	練習	1	2	3	4	
走高跳	成年男子	1m75	1m80	1m85	1m90	1m95	以降3cm刻み
	少年共通男子	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	以降3cm刻み
	成年女子	1m40	1m45	1m50	1m55	以降3cm刻み	
棒高跳	少年A男子	3m60	3m70	3m80	3m90	4m00	以降10cm刻み
	少年共通女子	2m00	2m20	2m40	2m60	以降10cm刻み	

\*第1位決定の上げ下げは、走高跳で2cm、棒高跳で5cmとする。

\*天候その他の特殊条件によって変更する場合は、当該審判長が決定する。

#### 8. 競技場への入退場について

(1)競技場への入退場は全て、競技役員の手導により行う。競技者以外は、競技場に立ち入ることはできない。

(2)競技終了後におけるトラック競技者は、スタンド横の通路より退場し、メインスタンド前は通らない。

(3)フィールド競技における競技者は、当該審判員、マーシャルの指示に従い退場する。

#### 9. 競技用器具について

(1)競技に使用する器具は、主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳のポールは個人所有のものを使用する。ポールについては、競技開始前に跳躍場で跳躍審判員の検査を受け許可されたものが使用できる。やりも個人所有のものを認める。但し、器具庫で事前に検定を受けること。

(2)フィールド競技で、助走に使用するマーカーは、主催者が用意する。使用し終わったら、競技者自身で取り外し、所定の場所に返納する。

#### 10. 競技用スパイクシューズについて

競技場は、全天候型であり、スパイクピンの数は1本以内で長さは9mm以内、走高跳とやり投では12mm以内とする。

#### 11. 表彰について

各競技8位までの入賞者は賞状を授与する。表彰は3位までとし、当該競技終了後、係の指示に従い表彰者待機所で待機すること。なお、4～8位賞状は、エントランスホールに賞状置き場を設けるので取りにくること。

#### 12. テントの設営場所について

テントを張る場所は、次に従い、各自責任を持って取り扱うこと。

- 大会前日は設置できない。大会当日の開門（7時）より認める。
- 大会期間中は、設置したままで良いが、各校・各自の管理責任とする。主催者では一切の責任を負わない。また、競技場外の設置は禁止とする。
- メインスタンドへの設置はしないこと。

#### 13. 応急処置について

医務室に医務員を配置し、応急処置のみ行う。

#### 14. ごみ処理の協力について

ごみは、各チーム・個人で全て持ち帰ること。

#### 15. その他

貴重品の管理は、各自またはチームごとで責任を持って行うこと。